

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	46人	算数	46人	理科	46人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	56人	算数	56人	理科	56人
------	----	-----	----	-----	----	-----

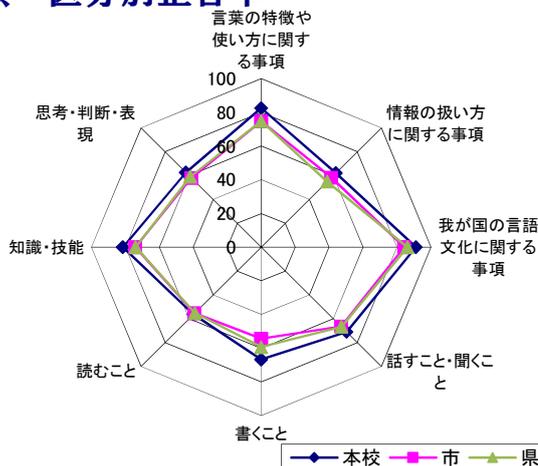
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	82.5	74.7	74.8
	情報の扱いに関する事項	62.2	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	91.1	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	71.1	66.7	66.9
	書くこと	66.7	54.3	59.3
	読むこと	56.4	55.6	55.2
観点	知識・技能	81.4	74.1	74.0
	思考・判断・表現	62.6	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

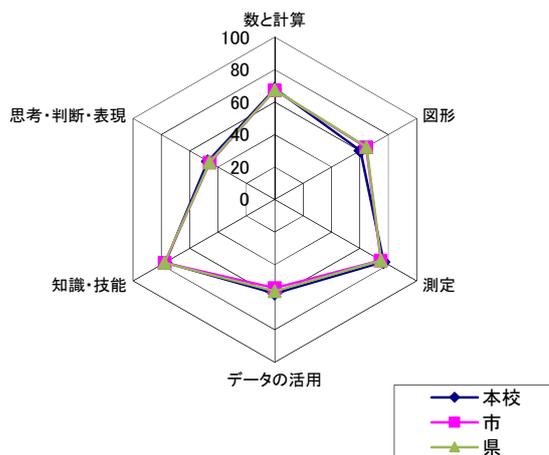
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	校内平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○漢字を読む、書く問題では、正答率が県や市の平均を上回っている。既習の漢字がおおよそ身に付いていると考えられる。 ●ローマ字で表記されたものを読む問題では、県の平均より上回っているが、定着は十分ではないと考えられる。	・情報教育と関連付けて、ローマ字入力によるパソコンの活用をするなど、日常的にローマ字に触れる機会を増やす。 ・朝の学習や家庭学習などを通して、ローマ字の学習を継続していく。
情報の扱いに関する事項	校内平均正答率は、県や市の平均よりやや高い。 ○国語辞典の使い方に関する問題では、県や市の平均より上回っており、国語辞典の使い方をほぼ理解していると考えられる。	・単元の意味調べなどを通して、国語辞典を活用する機会を増やして語彙力を高めていく。
我が国の言語文化に関する事項	校内平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○漢字のへんやつくりを選ぶ問題では、県の平均を5ポイント、市の平均を6.8ポイント上回り、漢字の部首についてはよく理解していると言える。	・引き続き各種ドリルの活用、朝の学習、家庭学習などを通して、漢字の学習を継続していく。
話すこと・聞くこと	校内平均正答率は、県や市の平均よりやや高い。 ○理由を付けて自分の考えを、相手に伝える問題では、県の平均よりも14.4ポイント高く、考えをまとめる力は身に付いてきていると言える。 ●話合いの内容を聞き取る問題では、伝えたいことの内容を捉えることの正答率が低く、十分ではないと考えられる。	・対話的な活動を授業の中で積極的に取り入れる。 ・国語の時間を中心に、話合いの内容を正確に聞き取る経験を多く積ませるようにする。
書くこと	校内平均正答率は、県や市の平均よりも高い。 ○自分の考えを持ち、理由を明確にして文章を書く問題では、正答率が、県の平均より10.7ポイント上回り、自分の考えを理由付けて書く力が身に付いていると言える。 ●段落を分けて文章を書く問題では、県と市の平均より上回っているが、文章構成の力が十分ではないと考えられる。	・国語の文章を書く活動や日常的な日記や作文等の指導において、段落構成を意識して文章を書く経験を積ませる。 ・新聞やリーフレットを作る活動などを通して、調べたことを分かりやすく伝える力を身に付けさせる。 ・自ら文章を書きたいと思うような活動を各教科の中で取り入れる。
読むこと	校内平均正答率は、県や市の平均よりやや高い。 ○物語文の登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える問題の正答率は、県や市の平均より高い。 ●叙述を基に段落を分ける問題では、県や市の平均をやや上回っているが、叙述を基に段落の内容を捉える力が十分でないと考えられる。	・文章を読むときに、段落や構成を意識しながら読む活動を取り入れていく。 ・物語文や説明文などの本に触れる機会を意図的に多く設定していく。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.2	67.3	67.4
	図形	60.4	64.5	64.7
	測定	76.7	74.7	74.9
	データの活用	57.8	54.4	56.4
観点	知識・技能	77.3	77.6	77.8
	思考・判断・表現	47.3	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

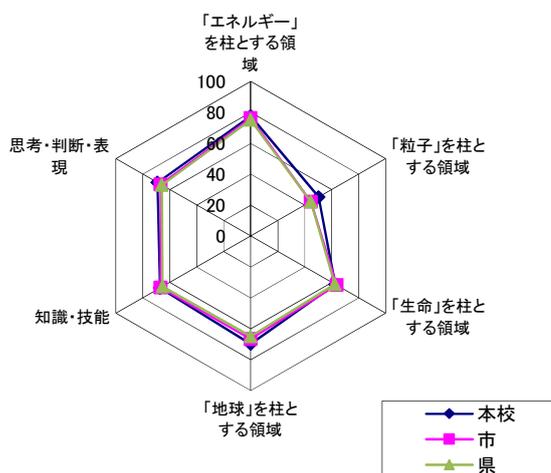
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>校内平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○小数のしくみや表し方として正しいものを選ぶ問題では、正答率が高く、ほぼ理解していると言える。コース別学習や小人数指導を充実させた成果だと思われる。</p> <p>●大きな数の表し方についての理解に課題がみられる。また、数直線上に示された分数を読み取ることも課題がみられる。</p>	<p>・コース別学習や少人数指導で、反復練習や個別指導を継続し、つまづきが見られた場合は、その場で指導に当たるようにする。</p> <p>・整数や分数の指導の際に、数のまとまり・意味や表し方について再度理解を深める。</p>
図形	<p>校内平均正答率は、県や市の平均より低い。</p> <p>○二等辺三角形の作図に関する問題では、校内正答率が県を上回っている。様々な図形の作図を繰り返し行った成果だと思われる。</p> <p>●円の中心とコンパスの使い方に関する理解に課題がみられる。</p>	<p>・朝のステップアップやコース別学習等で、個別の支援を行い、基礎的な事項の定着を図る。</p> <p>・授業において、説明し合う学習を積極的に取り入れ、考察したことを表現する機会を増やし、理解が深まるようにする。</p>
測定	<p>校内平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○地図から道のりを読み取り、その和を求める問題や、身近にあるものの重さを推察して、適切な単位で表す問題では、校内正答率が県の正答率を上回った。実際にはかりを使った操作活動等を繰り返し行った成果だと思われる。</p> <p>●はかりの目盛りの読み方の定着が不十分である。</p>	<p>・操作活動や、実際の生活を想定した身近な数値を使うことにより、目盛りの読み方の定着を図る。</p> <p>・単位の概念については、日常生活や他教科と関連させ、繰り返し取り上げるにより、身に付けさせる。</p>
データの活用	<p>校内平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○全体的な正答率は高く、概ね理解できている。グラフの作図等について、繰り返し学習を行った成果だと思われる。</p> <p>●棒グラフの1目盛りの表す数の読み取りでは、定着が不十分なところがある。</p>	<p>・算数の授業だけでなく、他教科でも、表やグラフの読み取りや考察を表現する活動を増やす。</p>

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	77.6	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	50.4	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	62.6	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	69.8	66.6	64.9
観点	知識・技能	67.3	66.8	65.4
	思考・判断・表現	69.1	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>校内平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○豆電球に明かりがつく回路を選ぶ問題では、電気を通す性質のものを実験結果から正しく導き出すことができている。</p> <p>●ゴムの働きに関する問題では、ゴムの性質については理解しているものの、問題文や図表を正しく読み取って推測することに課題が見られる。</p>	<p>・実験や体験的な活動をさらに充実させ、学習内容の定着を図る。</p> <p>・実験の結果や考察を自分の言葉でまとめる活動を繰り返し行うことで、説明する力や質問の意図を捉える力を育てる。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>校内平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○同じ体積のもの重さを比較することで、もの種類を見分けることができている。</p> <p>●形が変わっても重さが変わらないことへの理解が十分ではない。</p>	<p>・実験の機会を十分に確保し、実験結果からわかることを子どもたちが分析したり、まとめたり、説明させたりする。</p> <p>・子どもたちの疑問や発言を取り入れて、実験を行う時間を設ける。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>校内平均正答率は、市の平均正答率をやや下回っている。</p> <p>○植物や昆虫の育ち方を観察する技能が身に付いている。</p> <p>●虫眼鏡などの実験用具の正しい使い方に課題が見られる。</p>	<p>本校の平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。</p> <p>・実験用具の使い方を丁寧に指導し、実際に正しく操作できているか確かめるようにする。</p> <p>・観察の時間を確保したり、デジタル教材を上手に活用したりする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>校内平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○温度計の使い方やメモリの読み方が正しく身に付いている。</p> <p>●太陽と影の関係や方位についての理解が十分でないところがある。</p>	<p>・大切な言葉や語句を使って、自分で単元のまとめをする活動を取り入れ、学習内容の定着を図ることができるようにする。</p> <p>・実際に観察できないものに関しては、映像資料やインターネットを活用して調べ、児童の探求的な活動につなげる。</p>

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習に関する質問の肯定的回答率は、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」が82.2%、「家で、学校の授業の予習をしている」が73.3%、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」が73.3%で、それぞれの回答で県の平均を10ポイント以上大きく上回っている。家庭学習の指導を重点的に行う期間を設けたり、カレンダーや振り返りカードの活用を図ったりしてきた成果の表れであると考えられる。

今後も家庭との連携を図りながら、内容の工夫にも目を向けられるようなアドバイスをして、更なる充実を目指していきたい。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」と肯定的に回答した児童が100%であった。
引き続き、集団の一員としての自覚をもって、充実した学校生活を送れるようにしていきたい。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」と肯定的に回答した児童の割合が、どちらも県の平均を大きく上回った。学習の見通しをもって授業に臨み、学んだことを振り返ることで次の学びにつなげる習慣が身につけてきている。

引き続き、課題提示、教材、板書、授業の展開を工夫したり、一人一人のよさを伸ばす言葉かけや支援を行ったりして、楽しく分かる授業の展開に努めていきたい。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問について、全くしないと回答した児童の割合が22.2%であった。また、「新聞を読んでいる」の質問について、ほとんど、またはまったく読まないと回答している児童の割合が8割を超えていた。文章に触れる機会が増えると、語彙力も増え学びの質も高まると考えられる。

引き続き、図書館司書とも連携して本の活用の推進を図ったり、新聞を活用した授業などに取り組んだりして、児童が進んで本や新聞を読む機会を増やしていきたい。

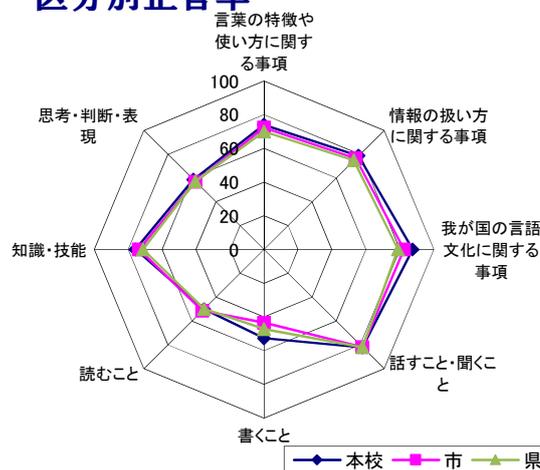
●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と肯定的に回答した児童の割合は60.0%で、県の平均をかなり下回った。対話的な活動を授業に積極的に取り入れてはきたが、学習に関して自分の考えを自信をもって伝えることを苦手と感じている児童が多いと考えられる。

引き続き、学習内容の理解に努め、相手意識や目的意識をもって話し合いに参加できるようにしていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	74.0	72.3	70.0
	情報の扱いに関する事項	78.6	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	87.5	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	82.1	81.9	82.0
	書くこと	52.7	43.5	47.2
	読むこと	50.0	51.4	49.8
観点	知識・技能	75.7	73.6	71.3
	思考・判断・表現	58.7	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

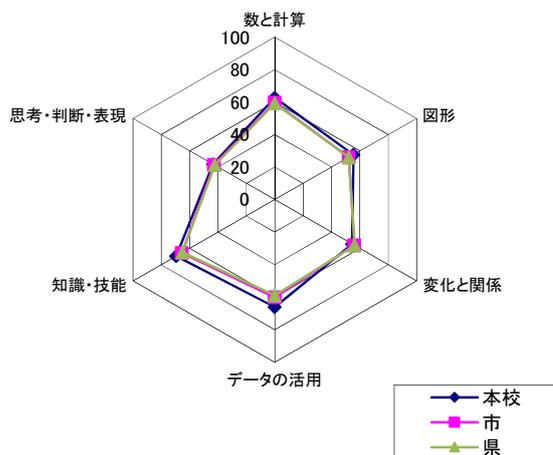
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	校内平均正答率は、県や市の平均をやや上回っている。 ○漢字を読む問題では、全ての問題で正答率が高く、基礎基本の定着が図られていると考えられる。 ●連体修飾語の問題では、修飾語の意味や使い方の理解が十分ではないと考えられる。	・言葉の学習に関する小單元の中で着実に身に付けられる工夫をしていく。 ・朝の学習、家庭学習を通して、文の構成の学習を継続していく。
情報の扱いに関する事項	校内平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○漢字辞典の使い方の問題では、県や市の平均より高く、漢字辞典の使い方を理解していると考えられる。	・漢字辞典を活用する機会を増やして語彙力を高めていく。
我が国の言語文化に関する事項	校内平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○ことわざの問題では、正答率が県の平均よりも8.6ポイント高く、ことわざの意味を理解し、正しく使えていると言える。	・朝の学習、家庭学習などを通して、ことわざ、慣用句の学習を継続していく。
話すこと・聞くこと	校内平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じ。 ○話し合いの内容を聞き取る問題では、県の平均より5.4ポイント上回っており、話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができると考えられる。 ●司会の役割になって参加者の発言の共通点に着目して考えをまとめたりする問題では、県の平均を3.8ポイント低い。	・対話的な活動を授業の中で積極的に取り入れる。 ・国語の時間を中心に、各教科の学習や様々な活動の中で、効果的な質問の仕方や的確に意図を伝える話し方について確認しながら経験を積んでいけるようにする。
書くこと	校内平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○資料を適切に読み取り、指定された長さで文章を書くことはできた。 ●県の平均を上回っているが、読み取ったことに対しての自分の考えを明確にして書くことが十分ではないと考えられる。	・作文や感想文、学習の振り返りを書く活動など、自分の考えを文章化する機会を多く取り入れる。 ・読書や、わからない言葉を進んで調べることを通して、語彙力を高める。
読むこと	校内平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じ。 ○物語の場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る問題の正答率は、県の平均より高い。 ●説明文の内容を読み取る問題では、叙述を基に文章の内容を捉える力が十分ではないと考えられる。	・説明文では、段落の要点をまとめたり、段落相互の関係を的確に捉えたりできるように読み取りを進める。 ・物語文や説明文などの本に触れる機会を意図的に多く設定していく。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.7	59.7	59.2
	図形	55.4	52.1	52.1
	変化と関係	54.5	56.1	56.3
	データの活用	66.1	60.1	58.9
観点	知識・技能	69.5	65.5	65.1
	思考・判断・表現	43.6	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

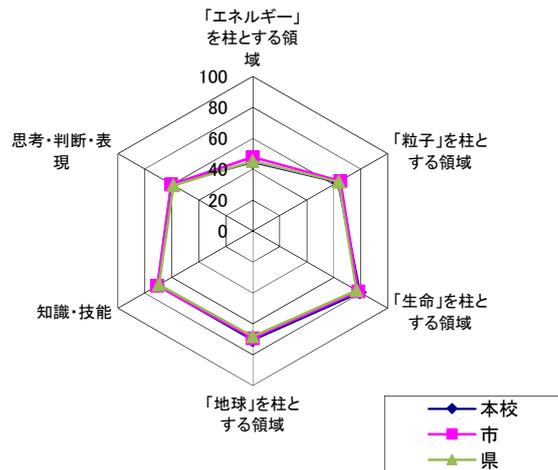
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>校内平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○大きな数や小数×整数の校内正答率が高い。コース別学習や少人数学習での指導を充実させた成果と思われる。</p> <p>●概数について理解し、目的に応じて見積もることに課題がみられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活に結び付くような場面設定をし、算数を活用する機会を設けるようにする。 デジタルドリルを家庭での復習に活用し、理解の定着を図る。
図形	<p>校内平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○角の大きさの目盛りの読み取りの問題では、校内正答率が高い。類似問題を取り上げ、繰り返し学習を行った成果だと思われる。</p> <p>●複合図形の面積を求める問題に課題がみられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ステップアップや少人数学習など、個別の支援を継続して行い、基礎的な事項の定着を図る。 授業において、説明し合う学習を積極的に取り入れ、考察したことを表現する機会を増やし、理解が深まるようにする。
変化と関係	<p>校内平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係について、理解が定着してきている。表の見方について指導を充実させた成果と思われる。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係について、読み取ったことを正しく表現したりすることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を捉え、正しくテープ図や数直線などの図に表す活動を繰り返し行う。 数量の関係について読み取り、考察したことを表現する活動を積極的に取り入れる。
データの活用	<p>校内平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○二次元表の読み方について、県や市の正答率より高いが、全体の理解は十分であるとは言えない。</p> <p>●グラフの読み取りについての力が不十分である。また、比べて関連付けて考えたり、読み取ったことを正しく表現したりすることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 算数の授業だけでなく、他教科とも関連させて、二次元表や折れ線グラフ・棒グラフなどを読み取り、考察したことを表現する活動を積極的に取り入れる。 発展的な問題にも取り組ませ、対話的な学習を意識して、理解が深まるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	44.6	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	63.3	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	79.3	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	70.5	69.5	68.1
観点	知識・技能	70.5	70.8	69.5
	思考・判断・表現	60.4	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>校内平均正答率は、県や市の平均正答率をやや下回っている。</p> <p>●乾電池のつなぎ方と電流の大きさの関係について理解が十分に定着していないところがある。</p>	<p>・大切な言葉や語句を使って、自分で単元のまとめをする活動を取り入れ、基礎基本の定着を図ることができるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>校内平均正答率は、県や市の平均正答率をやや下回っている。</p> <p>○金属の温まり方についての理解ができています。</p> <p>●ものの温度と体積については、質問の意図を捉えることに課題が見られる。</p>	<p>・実験に対する予想を立てる活動を大切に、実験結果と比べて、結果の根拠を考えさせるようにする。</p> <p>・実験をすることだけで終わるのではなく、学習を振り返ったり、映像資料を活用したりすることで、学習内容の定着を図るようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>校内平均正答率は、県や市の平均正答率をやや上回っている。</p> <p>○植物の1年間の変化についてよく理解している。</p> <p>●重要語句の定着に課題が見られ、個人差も大きい。</p>	<p>・主要語句の意味を正しく理解できるよう、自分で単元のまとめをする活動を取り入れ、基礎基本の定着を図るようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>校内平均正答率は、県や市の平均正答率をやや上回っている。</p> <p>○星の明るさと色についての理解が十分にできている。</p> <p>●方位磁針の正しい使い方が十分に身に付いていない。</p> <p>●自然事象について自分の言葉で説明することに課題が見られる。</p>	<p>・デジタル教材を効果的に活用することを継続する。</p> <p>・発展的な問題についても積極的に取り組ませ、対話的な学習を意識して理解が深まるようにする。</p>

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

検討事項

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と肯定的に回答した児童の割合は(89.3%)約9割となっており、市の平均と比べて約10ポイント高い。対話的な活動を授業に積極的に取り入れてきた成果が表れてきていると考えられる。

話し合い活動での自分の考えの変容を確認する機会を増やすなど、主体的に対話的な学びの充実につなげていきたい。

○家庭学習に関する質問の肯定的回答率は、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」が75.0%、「家で、学校の授業の復習をしている」が75.0%、「家で、学校の授業の予習をしている」が64.3%で、それぞれの回答で市の平均を10ポイント以上大きく上回っている。家庭学習の指導を重点的に行う期間を設けたり、カレンダーや振り返りカードの活用を図ったりしてきた成果の表れであると考えられる。

今後も家庭との連携を図りながら、内容の充実と工夫ができるようにアドバイスをしていきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている」と肯定的に回答した児童の割合は96.4%、「自分のよさを人のために生かしたいと考えている」と肯定的に回答した児童の割合は94.7%となっており、いずれも市の平均を約7ポイント上回っている。今後も自分のよさが発揮され認められる場面を多く設定したり、学校生活が充実したものになったりするように支援していきたい。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問について、全くしないと回答した児童の割合が14.3%であった。また、「新聞を読んでいる」の児童質問について、ほとんど、またはまったく読まないと回答している児童の割合が約9割となっていた。

引き続き、図書館司書とも連携して本の活用の推進を図ったり、新聞を活用した授業などに取り組んだりして、児童が進んで本や新聞を読む機会を増やしていきたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか」の質問について、4時間以上と回答した児童が19.6%であった。また、4時間以上ゲームをしている児童も8.9%いた。放課後の時間の使い方が乱れている児童が多いと考えられる。

家庭との連携を図りながら規則正しい生活習慣の改善に努めるとともに、長時間のテレビや動画視聴とゲームの影響について改めて児童が考える機会を設けていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
楽しい授業・分かる授業の推進	課題提示、教材、板書、授業の展開を工夫したり、一人一人のよさを伸ばす言葉かけや支援を行ったりして、楽しく分かる授業の展開に努めている。	「次の授業の内容はよく分かりますか(国語・算数・理科・社会)」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生は国語・社会・理科において、5年生は、国語・社会・算数・理科において市・県の平均より高くなった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」や「家庭学習カレンダー&振り返りカード」を活用したり、年間3回「家庭学習強化週間」を実施したりし、家庭と連携して目標時間や内容を意識した家庭学習の習慣化を図っている。	「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生・5年生ともに県の平均より10ポイント以上上回った。とくに5年生は16.9ポイント高かった。また、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生・5年生ともに県の平均を上回り、とくに5年生が県の平均回答率より11.6ポイント高かった。
対話的な活動から学びを実感できる学習活動の工夫	「自分の思いや考えをもつ子ども」「進んで伝え合い、学び合う子ども」の育成を目指し、対話的な活動を積極的に授業に取り入れ、主体的に学び合おうとする授業を目指している。	「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生・5年生ともに県の平均より高くなった。また「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、5年生で県の平均より高くなった。